

これが 公民館報

第336号

御意見・御希望・お問い合わせは四賀公民館まで… TEL 64-3112

四賀の世帯数・人口

世帯数	1,912	世帯
人口	4,202	人
男	2,031	人
女	2,171	人

(令和3年9月1日現在)

四賀の祭り

② 秋に賑やかに祭りが行われてきました。そのうちのいくつかをご紹介します。

◆ 金井

金井には春と秋年2回のお祭りがあります。春はお不動様、秋は秋葉社、どちらも宵祭り本祭りとして2日間行われます。

お不動様の祭典では、毎年長越の瑞泉寺の方丈様にお経をあげていただきます。青年会による囃子・富くじ・金魚すくい・綿あめなど、手作りする感満載ののどかな春のお祭りです。

秋祭りは舞台(船形)を引きます。しかし何年も前から人口減少や高齢化など舞台の引手不足といった課題を抱えています。

距離を短くしたり緑ヶ丘クラインガルテンのガルテナーさんにご参加をいただき、和気あいあいとお宮まで引き上げています。収穫の感謝と翌年の豊作を祈願し盛大に行われます。



◆ 保福寺町

保福寺町では津嶋社の祭りを春に行っています。舞台が3台ありその内の1台の飾り舞台を紹介します。



◆ 建造 明治29年

大工棟梁は会田村堀内益太郎、彫刻師は松本町清水虎吉、金具師は上水内郡長野町坂田仙太郎

◆ 構造形式 四輪(二輪二双)

前後左右とも内輪御所車型 ◆ 特徴 全体は典型的な松本平に見られる舞台の形式。車輪は四輪であるが前後の中央に二対左右の中央に二対と言う配置は珍しい。

松本周辺の舞台彫刻を数多く手がけた立川流工匠清水虎吉作品のうち、当舞台は制作年代が明確な舞台彫刻としては明治19年龍笛台(岐阜県吉川町)に次ぐものであり、清水虎吉の舞台彫刻の変遷を知る上で指標的な作品です。

◆ 井刈

井刈諏訪社は創立年は不詳ですが、江戸時代初期に現在の宮ノ上に移されたものです。通常は9月の最終土曜日に宵祭り、日曜日に本祭りを行っています。(去年今年之余興等は中止し奉納のみ)

舞台(山車)は上(かみ)・下(しも)に分け2艘を有し、お囃子も別々のものがありました。上の舞台は宮下の鳥居近くに置かれ、大木戸・上井刈・宮の上常会の若連(信友社)の持ち場、下の舞台は社務所近くに置き、石仏生竜・相沢・太の田・井刈南部常会の若連(友愛社)の持ち場でした。

近年は人口減少により上下関係無く町会総出で曳き押ししています。舞台に車輪及びブレーキ装置を設けたり、お囃子も同一のものを使用し祭の保存に努めています。



夏の大結ぶ市

春に続いて2回目の「大結ぶ市」が8月7日(土)に四賀支所にて開かれました。毎週金曜日のキッチンカーを主体とした結ぶ市はすっかりお馴染みになったと思いますが、年4回の「大結ぶ市」はクラフト作品や衣料等の作家も参加してより多くの皆さんに知ってもらい、繋がりを広げる場として企画されています。今回も盛況で午前中に売り切れとなる出店者もありました。今年度は市の地域自治支援交付金の対象事業に決まり、ますます内容が充実していく事が期待されます。





残念! 駒ヶ岳千畳敷散策

梅雨も明けきらぬ7月9日(金)に、中央アルプス駒ヶ岳の千畳敷へ行ってきました。天気予報とにらめっこで上に行く頃は良くなりそうなので出発しました。残念ながらロープウェイに乗ると雲の中に入り、山上は真っ白で歩くこともできず下山しました。



夏山を満喫した 白馬五竜

夏空が広がり連日真夏日が続く7月26日(月)、冬は五竜スキー場になる遠見尾根をリフトで上がれば別天地です。スキー場を夏場は花畑にすることが定着し、花の数も増えてきました。これから開く花



殿村遺跡 最終調査報告会開催

平成20年〜31年の11年間に亘り松本市教育委員会により発掘調査された殿村遺跡関連の調査報告「殿村遺跡とその時代X」が最終報告の総まとめとして発表され、7月22日(木)報告会が開催されました。結論は、当初期待された会田氏の居館跡ではなく殿村遺跡II寺院跡、虚空蔵山II修験場で、地域の信仰空間の存在であったことが報告されました。中世の宗教勢力は武士以上に強大な力を持っていました。遺跡は15〜16世紀(室町〜戦国時代)。室町時代の大規模な造成遺構の発見です。出土された遺物は、高度な土木・建築技術、茶道具など、中国からの先進的な文化を受け入れていました。また、この地を政治的に治めていた会田氏との関わり

は大きかったと結論付けました。想像していた会田氏の居館跡ではありませんが、5000年前、この地に壮大な空間があったことに口マンを感じませんか。



清流で 魚をつかみ取り

7月17日(土)赤怒田の「四賀の里錦織」で夏のにしごりマルシェが開催されました。当日の目玉はニジマスのつかみ取りです。会場の裏を流れる保福寺川の浅瀬に魚を放し、素手でつかみ取りにチャレンジします。大勢の親子連れが訪れ、ひんやりとした清流につかりながら夏ならではの水遊びを楽しましました。つかみ取ったニジマスはその場で炭火で焼いて食べることもでき、さっそく焼きたての熱々を頬張る子どももいました。



7月30日発行の第335号の内容に誤りがありました。ことをお詫言いたします。記事は左記のよりに訂正いたします。



訂正文

図書館談義
小笠原氏の
鉄砲戦で滅亡した
会田氏について学ぶ

6月4日(金)四賀支所ピナスホールで「会田氏の滅亡と小笠原鉄砲衆」について地の歴史に詳しい市川恵一さんの講演がありました。鎌倉時代から当地を支配した会田氏(会田の姓は無い。支配者一統を称して会田氏と言う)は、甲斐の武田氏の信濃攻略により、上杉氏に従った者と武田氏に従った者に分かれ、武田氏に従った者は三十二年余りの天正十年に小笠原氏の鉄砲戦で滅亡します。会田から転出した

皆さんは信濃国会田が本貫であることから会田姓を名乗り、会田姓は、山形市・越谷市・柏崎市などに広がっています。戦国時代と現在をつなぐ興味深い講演会でした。



湧き水

▼実りの季節を迎えてもコロナ禍は収まる気配を見せず、今年も祭囃子の聞こえない寂しい秋になりました。▼とはいえ例年通りお祭りのご馳走は用意するつもりです。我が家の場合はまず小豆たっぷりの赤飯。昔の山村では米は貴重品で小豆で増量した赤飯は貧乏臭いと古老にからかわれたものです。鯉の甘露煮も欠かせない一品です。丸ごと買ってきてザラメと醤油で煮詰めます。頭や尻尾は鯉こくにします。かつて近所には親戚を呼んで大宴会を開く家も何軒かありましたが、平成になってからはそうした習わしはだんだん廃れてきました。▼しかし令和になっても続いている風習もあります。祭りの舞台引きの前後にお神酒と共に煮干しを食べるのは、今でも多くの氏子で行われているようです。煮干しといえども立派な尾頭付き。祭りのおつまみにふさわしいと拔擢されたのでしょうか。▼コロナ禍とともに消えてしまう伝統や風習も多いことでしょう。せめて記録に残して次世代に伝えていきたいものです。